科学的思考の基盤

基礎分野

授業科目	ICTの基礎	講師	氏名	藤本光史	開講年次	単位・時間
			所属	大学	1年次 前期	1単位 15時間
			実務経験	教授		

科目のねらい	基本的コンピュータおよびソフト（Word、Excel、PowerPoint）の使用方法を習得し、看護記録や研究に役立てる。またインターネットの適切な活用を通して情報収集力を養う。そして、情報化社会に必要な倫理を踏まえた上で、医療ICT化における看護師の役割について学ぶとともに、ICTを活用したコミュニケーションについての基礎的な能力を養う。
到達目標	
知識・技術	1．基本的なコンピュータおよびソフト（Word、Excel、PowerPoint）の操作を理解し使用できる。 2．情報倫理を理解した上でインターネットを活用できる。 3．医療ICTを理解し、述べることができる。
思考 判断・表現	1．医療ICT化における看護師の役割について、プレゼンテーションができる。 2．メール操作や情報の取り扱いに留意し、メールでの情報交換が実践できる。
主体的学習態度	1．グループワークにおいて、自己の意見を発言することができる。 2．グループワークにおいて、他者の意見を傾聴し、受け入れることができる。
科目評価	定期(筆記) 試験50%　　PowerPointファイル50%　　合計100%
テキスト	系統看護学講座　別巻　看護情報学　　(医学書院)
参考文献	

回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	情報科学概論,GoogleClassroomの使用法	○			藤本光史	多言語コミュニケーション 論理学Ⅰ(論理的思考) 論理学Ⅱ（批判的思考） 心理学 医療安全 看護倫理 倫理学	情報科学室
2	コンピューターとネットワークの基礎、IPアドレス	○					
3	キーボードとファイル操作、メール演習	○	○				
4	情報検索	○	○				
5	エクセルの基礎	○	○				
6	Webページの作成（個人情報管理についての注意を含む）、PowerPointの基礎	○	○				6回目では簡単なwebページを作成します。そこで情報発信と個人情報管理の重要性について学ぶ。
7	グループワークによる「医療ICTにおける看護師の役割」についてのPowerPoint作成	○	○				看護情報学のテキストを中心にテーマに沿った内容をスライドにグループでまとめる。
8	情報倫理と情報セキュリティ	○					

科学的思考の基盤

基礎分野

授業科目	倫理学	講師	氏名	村田　育也	開講年次	単位・時間
			所属	大学	1年次 前期	1単位 15時間
			実務経験	教授		
科目のねらい	社会的な規範を基に、人間の存在や価値観、考え方、見方を学ぶ。また医療における倫理を理解し、看護師として遵守すべき倫理を考えることができる。					
到達目標						
知識・技術	1．倫理とは何かを理解し、説明できる。 2．内的規範と外的規範について理解し、説明できる。 3．倫理原則について理解し、説明できる。					
思考 判断・表現	1．規範を基に看護師としての責任感や、義務感について自己の考えを述べることができる。 2．看護学生として知識を活用し、倫理について探求する行動を示す。					
主体的学習態度	1．グループディスカッションでは自らの意見を積極的に発言できる。 2．積極的にコミュニケーションをとろうとする行動がみられる。					
科目評価	レポート評価　50%　　定期（筆記）試験50%　　合計100%					
テキスト	看護のための生命倫理（ナカニシヤ出版）					
参考文献						

回数	教育内容	教育方法 講義	演習	その他	講師	関連科目	留意事項
1	倫理とは・価値とは	○			村田　育也	医療安全 看護学へようこそ 看護研究 在宅看護総論 こころと精神保健 看護倫理	倫理に関する用語について事前に調べておく。また自らの考え、意見を積極的に述べよう
2	命は誰のものか①（安楽死）	○	○				1章：以下該当するテキストの箇所をあらかじめ読んでおくこと。
3	命は誰のものか②（減胎）	○	○				2章
4	命は誰のものか③（医療資源の配分）	○	○				9章
5	命は誰のものか④（治療拒否）	○	○				10章
6	いつ人間になるのか（堕胎）	○	○				直接該当する箇所はないが、2章と8章を参考にしてください。
7	人間とは何か1（体外受精）	○	○				直接該当する箇所はないが、2章と4章を参考にしてください。
8	人間とは何か2（DI）	○	○				5章

科学的思考の基盤

基礎分野

授業科目	教育学	講師	氏名	池田竜介	開講年次	単位・時間
			所属	大学	2年次 前期	1単位 15時間
			実務経験	講師		

科目のねらい	看護師は対象に健康教育の実践をするだけでなく、専門性を高めるための自己の能力開発が重要となる。そして、チームで質の高い看護の向上をするためには後輩指導が必要となる。「教育」の基本的な知識や技能を修得することが、効果的な「指導」につながる。教育学の原理と方法の理解を深め、個別指導の方法を学ぶ。
到達目標	
知識・技術	1．教育の基本的概念（意義・目的）について述べることができる。 2．教育の対象の違いによる学習の違いを説明できる。 3．学習理論と動機づけを理解し説明できる。 4．看護師が教育学の必要性について述べることができる。
思考 判断・表現	1．日本における現代学校教育の問題点を指摘し、各自の見解を述べることができる。 2．「指導案」に学習目標、教授方法、評価について個別指導を記載できる。 3．指導案についての自己の教育観を発表できる。
主体的学習態度	1．指導案立案に際して他者の意見を受け入れることができる。 2．自ら調べ学習を行い、積極的に質問や相談ができる。 3．自己の教育観を発展させるための課題を明確にできる
科目評価	定期試験(筆記)70%、レポート・発表資料30%　合計100%
テキスト	プリント配布
参考文献	

回数	教育内容	教育方法 講義	演習	その他	講師	関連科目	留意事項
1	看護師が教育学を学ぶの意義と目的 看護継続教育論	○			池田　竜介	発達心理学 心理学 健康教育 成人看護学総論	1. 日本における現代学校教育の現状と問題について調べレポート提出する。(講義2)
2	今日の日本と世界の学校教育の違い	○					
3	教育の対象の学習の違い ペタゴジー アンドラゴジー ジェロゴジー	○					
4	学習理論と動機付け	○					
5	教授方法 (教育目標、教育内容、教育評価)	○					
6	教育上の問題（いじめ）をグループワークで分析し、課題に取り組む	○	○				いじめをテーマに社会の問題についてグループで分析しまとめて発表
7		○	○				
8	現代教育の課題と これからの教育のあり方	○					

人間と生活・社会の理解

基礎分野

授業科目	多言語コミュニケーション	講師	氏名	アン・クレシーニ	開講年次	単位・時間
			所属	大学	1年次 前期	1単位 30時間
			実務経験	准教授		

科目のねらい	コミュニケーションとは、人間が互いに意思・感情・思考を伝達する事である。コミュニケーションの理論の基礎を学び、看護におけるコミュニケーション能力を高める。また、現在の国際社会に対応しうる能力を備えるための世界共通言語である英語を活用し、医療現場で活用できるコミュニケーションを学ぶ。
到達目標	
知識・技術	1．言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションについて理解し説明できる。 2．英語を活用したコミュニケーションを理解できる。 3．コミュニケーション方法を活用し医療現場で活用できるコミュニケーションを身につけることができる。
思考・判断・表現	1．積極的にコミュニケーション方法を活用できる。 2．英語やコミュニケーション方法を活用し、対象への意思の伝え方を考えることができる。 3．多言語や多国語を活用し、自己紹介ができる。
主体的学習態度	1．対象を理解し、自らコミュニケーションをとる。 2．興味のある多言語・外国語を調べ自己紹介文を作る。
科目評価	定期試験80点、自己紹介20点、　合計100％
テキスト	入門・やさしい日本語・外国人と日本語で話そう　　（アスク出版） 即使える「病院英語」ハンドブック　（kindie版）
参考文献	

回数	教育内容	教育方法 講義	演習	その他	講師	関連科目	留意事項
1	コミュニケーションとは	○			アン・クレシーニ	医療現場のコミュニケーション 各専門看護 災害看護 国際看護	
2	正しい日本語 （敬語・尊敬語・謙譲語）	○					
3	英語を使ったコミュニケーション	○	○				講義ではロールプレイを含めて行います。
4		○	○				
5		○	○				
6		○	○				
7		○	○				
8	英語圏の方との優しい日本語を使ったコミュニケーション 1）はっきり伝える 2）最後まで言う 3）短く言う 4）敬語はつかわない 5）オノマトペ 6）二重敬語	○	○				
9		○	○				
10		○	○				
11		○	○				
12		○	○				
13	自己紹介	○	○				グループで好きな多言語（非言語的コミュニケーションを含む）や外国語を調べ、自己紹介を考える。 3分間の自己紹介を行う。
14		○	○				
15		○	○				

人間と生活・社会の理解

基礎分野

授業科目	医療現場のコミュニケーション	講師	氏名	①アン・クレシーニ ②岡野大輔	開講 年次	単位・時間
			所属	①大学 ②専任教員	2年次 前期	1単位 30時間
			実務経験	①准教授 ②臨床看護師		
科目のねらい	様々な医療場面における、言語的・非言語的コミュニケーションを活用した、効果的なコミュニケーションの方法を理解する。さらに専門的な援助関係について学び、関係構築のためのコミュニケーションの役割を理解する。					
到達目標						
知識・技術	1．アサーション技法の目的、方法を理解し、特徴を述べることができる。 2．コーチング、ティーチングの目的と方法を理解し説明できる。 3．インフォームドコンセントの目的と看護師の役割を理解し、述べることができる。 4．プロセスレコードの目的を理解し、述べることができる。					
思考 判断・表現	1．他者との援助関係を構築するためにアサーション技法を活用できる。 2．他者に興味関心を示すような傾聴と共感的姿勢を表すことができる。 3．他者の状況に合わせた方法を選択し、コミュニケーションをとることができる。 4．地域の方との交流をプロセスレコードに記載できる。 5．インフォームドコンセントについて得た知識を・技術を使って他者が理解できるよう伝達することができる。					
主体的学習 態度	1．自ら進んで他者とコミュニケーションをとることができる。 2．プロセスレコードを記載し自己の関わりをについて考察できる。					
科目評価	定期試験（筆記）50%　シミュレーション評価 50%　合計100%					
テキスト	系統学看護講座　基礎分野　人間関係論　（医学書院）					
参考文献	ナーシング・グラフィカ　基礎看護学①　看護学総論　（メディカ出版） ナーシング・グラフィカ　基礎看護学②　ヘルスアセスメント　（メディカ出版） ナーシング・グラフィカ　基礎看護学③　基礎看護技術　（メディカ出版）					

回数	教育内容	教育方法 講義	演習	その他	講師	関連科目	留意事項
1	アサーションの内容と目的	○			アン・クレシーニ	心理学 多言語コミュニケーション 看護学へようこそ 精神医療を支える看護 地域と暮らし 国際看護 災害看護	講義開始前にコミュニケーション論Ⅰの講義の復習をして臨む。 怒りをコントロールできなかった場面をできた場面へ変換し実践する。
2	アサーションを活用したシミュレーション	○	○				
3		○	○				
4	コーチング・ティーチングの目的	○	○				
5	医療のコミュニケーション	○	○				日本人以外の方を対象とした医療場面のコミュニケーション。
6		○	○				
7	傾聴と共感	○			岡野大輔		
8	インフォームドコンセントと看護師の役割	○					
9	カウンセリング技法の特徴と意義	○					
10	プロセスレコードの目的	○					校外学習のオリエンテーションを実施
11	地域へ出てコミュニケーションをとる		○	○			宮司地区へ出て地域の方と交流 （コミュニティーセンター）
12	プロセスレコードを使ってリフレクション	○					地域の方とのコミュニケーションの実際をプロセスレコードに記載する。
13	インフォームドコンセント場面を使った シミュレーション法と実践		○				プロセスレコードを記載することによって気づいた効果的な方法を実践する。
14	多職種との連携・協働のための コミュニケーション		○				医療場面で多職種とどのように情報共有を行うのか事例を使ってコミュニケーションを実践する。
15	シミュレーションの振り返りと 講義のまとめ	○					

人体と生活・社会の理解

基礎分野

授業科目	文化人類学	講師	氏名	大田　千波留	開講年次	単位・時間
			所属		2年次 前期	1単位 30時間
			実務経験			

科目のねらい	日本には、四季折々の季節があり、茶道、武術、相撲、和食など「日本文化」が海外でも紹介される。それに通じる成り立ちや特徴に注目すると、そこには共通する「日本の心」がある。小さい島国ではあるが、独特な方言や食文化などの多様な生活様式が特徴である。本科目では「日本」を客観視できる力を身につけ、一人ひとりが大切にしている文化的アイデンティティや社会的側面を考慮し、その文化特有の考え方や接し方を知って看護につなげることができる。
到達目標	
知識・技術	1．日本文化の特徴を理解し説明できる。 2．現代と昔の日本の文化と社会の変遷について述べることができる。 3．日本の行事やしきたりを理解できる。
思考 判断・表現	1．テーマに関する内容を調べ、発表することができる。 2．日本文化を意識したコミュニケーションがとれる。 3．日本の文化や行事を調べたことで、「日本のこころ」について自己の考えをレポートできる。
主体的学習 態度	1．日本文化の特徴と医療を関連付けて考えを述べる。 2．日本文化を生かした生活とは何かを考え、現在の生活との違いを具体化できる。
科目評価	グループワーク及び課題・レポート100%
テキスト	
参考文献	

回数	教育内容	教育方法 講義	演習	その他	講師	関連科目	留意事項
1	文化人類学とは何か	○			大田　千波留	教育学 倫理学 多言語コミュニケーション 心理学 社会福祉 各専門看護学 健康教育	課題① 1回目の講義前に「自分が経験した人生礼儀を調べ、記述する」 のレポートを提出
2		○					
3	日本の通過礼儀と生活（1） こどもと大人	○					
4	日本の通過礼儀と生活（2） 生産と文化	○					
5	日本の通過礼儀と生活（3） 死の礼儀	○					
6	日本の伝統文化 年中行事と現代	○					
7	日本の衣食住 家族とよそ者	○					
8	日本の言語 県民性	○					
9	日本の文化について （グループワーク）			○			
10	日本の文化について（発表）			○			10回目講義後　グループワークをふまえ　「日本の文化とはどのようなものであると考え方、自分の意見を記述する」
11	文化人類学と宗教	○					
12	日本人と宗教	○					
13	文化人類学と健康	○					12・13回の講義をふまえ、「文化と医療」レポートを提出
14	文化と健康 （グループディスカッション）			○			
15	まとめ	○					

人間と生活・社会の理解

基礎分野

授業科目	医療人類学	講師	氏名	徳安　祐子	開講年次	単位・時間
			所属	大学	3年次 前期	1単位 20時間
			実務経験	学術研究員		

科目のねらい	本科目では、異なる家族や宗教などを通して異文化を知り、その背後にある論理や価値観・社会や文化の理解を深め、グローバルな視点で世界の国々の文化や伝統を知る。また、文化の違いによって異なる病気・生に対する考え方を理解し看護観に関連させる。
到達目標	
知識・技術	1．世界の国々の文化や伝統を理解し説明できる。 2．健康や病気に対する様々な考え方があることを知り、述べることができる。 3．近年の医療についての変遷を知り、説明できる。
思考 判断・表現	1・日本と他国との文化の違いと病の背景について調べ、発表できる。 2・文化の違いによる生と死の考え方を踏まえ、自己の死生観をレポートできる。 3．国際的な健康課題の現状や取り組みについて考えることができる。
主体的学習 態度	1・異文化について知ることで、文化の違いと医療の違いに気づくことができる。 2．医療と文化・社会生活において関連付けることができる。 3．日本との文化の違いを踏まえ、グローバルな視点で文化と医療ついて探求できる。
科目評価	グループワーク・課題・レポート100%
テキスト	
参考文献	

回数	教育内容	教育方法 講義	演習	その他	講師	関連科目	留意事項
1	健康の意味と文化	○			徳安　祐子	文化人類学 多言語コミュニケーション 医療現場でのコミュニケーション 国際看護 災害看護 公衆衛生 社会福祉 倫理学 教育学 家族看護学 看護倫理	課題① 「諸外国の文化の違い」を第1回講義前にレポート提出とする。 3回目の講義ではテーマに沿ってルー プワークを行う。 課題② 「死生観について
2	医療と文化	○					
3	グローバル社会における医療の実際	○					
4	グループワーク・発表 （グローバル社会における医療の実際）			○			
5	2・地域特有の病（世界と日本の病の違い） 3・異文化の「生と死」	○					
6		○					
7		○					
8	グループワーク・発表（地域特有の病異文化の「生と死」	○					
9		○					
10	まとめ及び　国際看護への課題（発表）			○			課題③ 国際看護や災害看護につながる課題を見 つける

人間と生活・社会の理解

基礎分野

授業科目	家族看護学	講師	氏名	木下　みゆき	開講年次	単位・時間
			所属		2年次 前期	1単位 30時間
			実務経験	臨床看護師 （元准教授）		

科目のねらい	家族とは、システムとしての特徴を有しながら発達している１単位の生命体である。現在の社会システムでは、家族成員個々の選択と決定が優先されている。社会情勢の変化により多様化する家族の在り方を理解した上で、看護の対象として捉え、家族が持てる力を発揮し、問題解決能力を高める援助方法を理解することが望まれる。家族看護学では家族及び家族関係についての理解を深め、家族への支援、病と家族の苦悩について理解を深める。
到達目標	
知識・技術	1. 健康問題を持つ家族への看護の特徴について説明できる。 2. 家族の機能、役割、特徴について説明できる。
思考 判断・表現	1. 家族の定義を具体的に述べることができる。 2. ジェノグラム、エコマップを基に家族アセスメントが描ける。 3. 家族関係および家庭の問題について討議し発表できる。 4. 家族の苦悩について、役割を考えながら演じることができる。
主体的学習態度	1. グループワークで、自分の意見を積極的に述べ、ディスカッションすることができる。 2. 基礎的知識、講義での知識を活用し教科書を用いて自己学習することができる。 3. 留意事項を復習し、演習に参加することができる。
科目評価	定期試験（筆記）100%　　合計100%
テキスト	系統別看護学講座　別巻　家族看護学　（医学書院）
参考文献	１．森山美知子：ファミリーナーシングプラクティス　医学書院 ２．小林奈美：グループで学ぶ家族論　医歯薬出版

回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	科目ガイダンス・家族の基本概念・家族看護のニーズと目的	○			木下みゆき	文化人類学 医療人類学 発達心理学 周産期の看護 リプロダクティブヘルスの看護	家族発達論、フリードマン家族アセスメントモデル、カルガリー式家族アセスメント介入モデル、家族ストレス対処理論、家族看護エンパワーメントモデル、家族生活力量モデルについて復習しておくこと。
2	家族看護の基盤理論	○					
3	家族の発達理論・発達段階による課題	○					
4	現代の家族とその課題（GW）	○	○				アドラー心理学について復習しGWに参加
5			○				GWで意見をまとめる。
6	現代の家族とその課題（発表）	○	○				GWで意見をまとめ、発表
7	健康問題を持つ家族への看護 （1）急性期・慢性期	○					
8	健康問題を持つ家族への看護 （2）終末期	○					
9	健康問題を持つ家族への看護 （3）高齢者の介護負担	○					
10	家族の苦悩の場面を考える（1）	○	○				GWで意見をまとめ、発表準備
11	家族の苦悩の場面を考える（2）		○				GWで意見をまとめ、発表準備
12	家族の苦悩の場面を考える（3）		○				GWで意見をまとめ、発表準備
13	ＧＷの発表（1）	○	○				合同講義
14	ＧＷの発表（2）	○	○				合同講義
15	家族看護の実際と課題（まとめ）	○	○				合同講義

人間と生活・社会の理解

基礎分野

授業科目	発達心理学	講師	氏名	萬松恭代	開講年次	単位・時間
			所属		1年次 前期	1単位 20時間
			実務経験	臨床心理士 公認心理師		
科目のねらい	看護の対象である人間を生涯発達し続ける存在として理論を用いて捉える。ライフサイクル各期の身体的・心理的・社会的特徴と発達課題、特徴的な疾病について理解する。「個人差」のある人間の精神発達の基礎的な知識を身につける。					
到達目標						
知識・技術	1. ライフサイクル各期の身体的・心理的・社会的特徴、遺伝や環境が及ぼす影響、発達課題を述べることができる。 ２．発達心理学の専門用語について説明できる。					
思考 判断・表現	1. 人間の発達には「個人差」があることを踏まえ、ライフサイクル各期におこりやすい問題を考察できる。					
主体的学習 態度	1. 発達し続ける人間を自分自身に照らし合わせながら関心を深める。					
科目評価	定期試験(筆記)80%　　レポート20%　　合計100%					
テキスト	新体系看護学全書　基礎分野　心理学（メヂカルフレンド社）					
参考文献	看護のための人間発達学　（医学書院）					

回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	発達とは	○			萬松恭代	教育学 各専門看護学 心理学 こころを看る 子どもの病を看る 高齢者看護へようこそ 小児の発達と看護 こころの働きと精神保健 成人看護学総論	関連科目で学習した内容を事前に復習、予習し講義に臨む
2	発達段階と課題 エリクソン・ハヴィガースト	○					
3		○					
4	幼児期の発達と支援	○					
5	愛着理論（ボウルビー） 認知発達(ピアジェ)	○					
6		○					
7	児童期の発達	○					
8	青年期の発達	○					
9	成人期・老年期の発達 ライフサイクル論（レビンソン）	○					
10		○					

人間と生活・社会の理解

専門分野

授業科目	心理学	講師	氏名	①黒瀬まり子 ②中山幸輝	開講年次	単位・時間
			所属	②大学院	1年次 前期	1単位 20時間
			実務経験	①臨床心理士 カウンセラー ②講師		

科目のねらい	人間のこころの仕組みと働きについて基本的な知識を学ぶ。また人のこころや行動に現れた現象を科学的に観察し、分析する。
到達目標	
知識・技術	1．心の仕組みと働きを理解し自分の言葉で述べることができる。 2．心理学におけるこころと体の関係性について理解し、説明できる。 3．ストレスコーピングのための適応行動とは何かを理解し、具体的に述べることができる。
思考・判断・表現	1．人の心の働きを理解し、心理的適応や実現するための心理的アセスメントを実践する。 2．人間の行動に潜む法則を一般化したり、統計学的手法を使って見つけることができる。 3．TEGを使って、自己の傾向や強みを内省できる。 4．心理学における課題を挙げ、自由研究を行い研究発表する。
主体的学習態度	1．人のこころや行動について各自が探求する行動がとれる。 2．看護師として安全、安楽な援助を実践するために自分自身の心理について表現できる。 3．グループワーク中は積極的に意見交換し、他者と協力できる。
科目評価	レポート評価50%　研究レポート 50%　　合計100%
テキスト	新体系看護学全書　基礎分野　心理学（メヂカルフレンド社）　　随時資料を配布
参考文献	

回数	教育内容	教育方法 講義	演習	その他	講師	関連科目	留意事項
1	1．心理学におけるこころと体 1）心と身体の関係 2）体の捉え方 3）感覚と知覚 4）記憶と想起	○			黒瀬まり子	多言語コミュニケーション 教育学 発達心理学 ICTの基礎 看護研究	講義開始前にICTの基礎の講義し資料を熟読して臨むこと
2		○					
3	パーソナリティと発達	○					
4	ストレスと適応のメカニズム	○					
5	対人援助職のストレスとコーピング	○					
6	自己理解（TEG）と防衛機制	○					
7	統計学的処理 1）統計的仮説検定 2）データの収集と整理	○	○		中山幸輝		心理学に関連するテーマを課題とし、統計学的な手法を使って研究発表をする。
8	心理学のテーマを使って自由研究		○				
9			○				
10	発表と振り返り	○					

人間と生活・社会の理解

基礎分野

授業科目	健康スポーツ学	講師	氏名	山中　良晃	開講年次	単位・時間
			所属	大学	1年次 前期～後期	1単位 15時間
			実務経験	准教授		

科目のねらい	看護は、健康障がい時の援助のみならず、健康の保持増進も重要である。健康な身体を維持するために、近年は運動を疾病予防や介護・治療に活用することが多くなった。 運動をするうえで必要な体の仕組みと働きを学んだうえで、運動が心身に及ぼす影響を理解する。 自らが健康であり続けるための意識を持ち、運動を通して体力向上や健康的な心身をつくる。健康的な体格を維持できることは、自己効力感が高まる。また、爽快感や達成感を得ることができ、ストレス発散や精神的な安定がもたらされる。ここでは、運動・スポーツを中心とした健康との関連や必要性について学ぶ。
到達目標	
知識・技術	1．運動をするうえで必要となる体のしくみと働きが説明できる。 2．運動が心身に及ぼす影響について説明できる。 3．自己の健康管理プログラムを作成できる。 4．健康管理に必要な知識と技術を習得し、記載及び実践できる。
思考・判断・表現	1．自己の健康評価を行い、課題に気づくことができる。 2．他者の健康管理方法を知り、自己評価との違いに気づくことができる。
主体的学習態度	1．授業に興味・関心を持って参加できる。 2．運動・スポーツを行いながら、他者に対する尊重や協同を学び自己表現ができる。
科目評価	自己の健康評価と分析レポート等により興味・関心、思考・判断、知識・理解を評価する（75%）　実技25%　合計100%
テキスト	
参考文献	

回数	教育内容	教育方法 講義	演習	その他	講師	関連科目	留意事項
1	1.　スポーツとは 1)体のしくみと働きと運動の関係性 2) 運動が体の働きに及ぼす影響 3) 効率よい体の動かし方 4) 体のしくみと働きを活用した効果的なボディメカニクス 2．ドーピングコントロール	○		○	山中　良晃	からだの構造 からだの機能 日常生活から見るからだ 運動することと感覚の病を看る 運動力学 療養生活援助技術Ⅰ 療養生活援助技術Ⅱ 発達心理学 生命に必要なエネルギー	自己の健康評価を実施する。 （4月の健診データーを活用し、レポートする） 健康管理について目標を立てる
2	3．生活習慣病 1)ストレスと運動 2)リラクゼーション 3)健康と睡眠 4)有酸素運動 5)無酸素運動	○					
3	4．レクリエーションと運動 1) ストレッチ体操 2) ダイエットと シェープアップエクササイズ 3) 柔軟運動 4) ランニング 5)レクリエーションスポーツ バレーボール、テニスなど			○			
4				○			
5				○			
6				○			
7				○			
8	5．ウォーキング			○			健康目標達成度を評価する。

健康スポーツ学シラバス

基礎分野　　（令和５年度３年生用）

授業科目	健康スポーツ学	講師	氏名	山中良晃	開講年次	単位・時間
			所属	大学	３年次 前～後期	１単位 ３０時間
			実務経験	准教授		

授業の目的 到達目標	看護は健康障害時の援助のみならず、健康の保持増進も重要である。健康な身体を維持するために、近年は運動を疾病予防や介護・治療に活用することが多くなった。ここでは、運動・スポーツを中心とした健康との関連や必要性について学習する。

回数	授業計画・授業内容	授業方法	その他 （学習課題、等）
1 ↓ 15	（講義） １．熟年・高齢者の体力と運動、生活習慣病・ストレスと運動 ２．運動の危険性と障害予防 ３．ドーピングコントロール （実技） １．ストレッチ体操 ２．スポーツを楽しむ：ソフトバレーボール、テニスなど レクリエーショナルスポーツ ニュースポーツ　他 ３．健康づくりのための運動	講義 実技	

評価方法及び評価基準	出席状況、筆記試験、実技について、①興味・関心　②思考・判断　③技能　④知識・理解の４項目を総合的に評価する。（２月）
テキスト	
参考文献	
備　　考	

人間と生活・社会の理解

基礎分野

授業科目	論理学Ⅰ（論理的思考）	講師	氏名	芳賀吉文	開講年次	単位・時間
			所属		1年次 前期	1単位 15時間
			実務経験	非常勤講師		

科目のねらい	論理学とは、正しい判断や認識に達するための思考の進め方を明らかにしようとする学問である。ここでは論理的思考に必要な知識を学び、看護に必要な客観的評価ができるものの見方や考え方、用語力、伝達力を養う。看護師には論理的判断、および論理的な文章を書く能力が必要である。論理的思考を身に着けるための第一歩として発言力、読む力も身に付けたい。
到達目標	
知識・技術	1．論理的思考とは何かを説明することができる。 2．論理的文章とは何かを説明することができる。
思考・判断・表現	1．論理的思考をもとに、論理的な文章を記述できる。 2．原稿用紙の規則に従い文章を書くことができる。 3．テーマに沿った文章を書くことができる。 4．読み物の内容をまとめ、文章にすることができる。 5．理由をつけて意見を述べることができる。
主体的学習態度	1．グループワーク時は自己の考えを述べ、意見交換ができる。 2．図書室を利用し参考図書や文献を活用できる。
科目評価	小論文50%　　課題レポート50%　　合計 100%
テキスト	看護学生が身に着けたい 論理的に書く・読むスキル　（医学書院）
参考文献	

回数	教育内容	教育方法 講義	演習	その他	講師	関連科目	留意事項
1	1.論理/論証とは何か 1）論理の基本 （1）論理とは （2）論理的とは （3）論理学とは	○			芳賀吉文	教育学 心理学 多言語コミュニケーション 看護過程 看護研究	論理に関係する用語について事前に調べる
2	1．接続表現 2．文と文の関係を明確医する	○					用語についての復習テスト
3	1．論理的に考える方法 ・根拠と結論と導出の関係 ・「事実VS考え」と「推測VS意見」を定義する	○					
4	原稿用紙・レポートの書き方	○	○				原稿用紙とレポート用紙を準備
5	論証を図で示す	○	○				
6	論理的に書く ・一文一義 ・パラグラフ構造の理解	○	○				
7	論理的に読む ・４つのステップと５つのポイント	○	○				
8	「論理的に読む」を実践する						

人間と生活・社会の理解

基礎分野

授業科目	論理学Ⅱ(批判的思考)	講師	氏名	芳賀吉文	開講年次	単位・時間
			所属		2年次 前期	1単位 15時間
			実務経験	非常勤講師		

科目のねらい	論理学Ⅰをふまえ、科学的根拠に基づく看護実践を行ううえで不可欠な学問であり、自らの看護行為の根拠を考え提示し、論理を自覚したうえで患者をケアする能力を学ばせたい。
到達目標	
知識・技術	1．文章を読むことができる。 2．演繹法と帰納法の違いを説明できる。 3．批判的思考とは何か説明できる。
思考・判断・表現	1．文章の論理的構造を理解し、その構造を説明できる。 2．文章を読み内容を要約することができる。 3．文章や思考を批判的に考察することができる。 4．論理的思考、批判的思考が問題解決と関連していることを発言できる。
主体的学習態度	1．授業で学習した項目についてまとめることができる。 2．情報から論理的に物事をとらえ考察することができる。 3．討論を行う場合は、ルール（感情的・攻撃的にならない、論理的に話す）を守ることができる。
科目評価	文章要約課題30%　批判的読解30%　討論40%　合計100%
テキスト	必要時資料を配布
参考文献	看護学生が身につけたい 論理的に書く・読むスキル（医学書院）

回数	教育内容	教育方法 講義	演習	その他	講師	関連科目	留意事項
1	原稿用紙の使い方・接続表現・論理的に考える方法（復習）	○	○		芳賀吉文	教育学 心理学 多言語コミュニケーション 看護過程 看護研究	
2	文章の要約	○	○				
3	パラグラフ構造で書く ・ブレインストーミング	○					
4	文章をまとめる 1）批判的読解	○					
5		○					4回目の内容を推敲
6	論理的に読む	○					読むと同時に批評する。賛成・反対の立場で書く演習
7	論理的思考で討論してみよう 1）自分の考えや思考を他者に伝えるための表現 2）他者の意見を客観的に評価する	○	○				テーマをもとに、これまでの学びをふまえ論理的討論を行う
8		○	○				